

第1回 苫小牧市都市計画マスタープラン改定検討委員会

議事録要旨

【日 時】 平成28年10月19日（水）10:00～11:30

【場 所】 苫小牧市役所 9階 第2委員会室

1 開会

2 委嘱状交付

3 副市長挨拶

- ・ 佐々木副市長挨拶

4 委員長の選出

- ・ 委員長に北海道大学大学院教授の田村委員を選出
- ・ 田村委員長挨拶

5 議事

(1) 都市計画マスタープランの改定に係る方針について

【事務局から説明（資料2）】

【丹羽委員】

- ・ 苫東にはもともと農家があったが、苫東開発によって農業は衰退した。現在の農業地域は、西部の樽前地域と東部の植苗・美沢地域のみである。後継者の問題はあるが、東部は利便性が良いため、企業など新たな利用者も増えてきている。
- ・ 植苗・美沢地域は新千歳空港に近いため、今後の発展を見据えた都市計画を考えるべき。環境を大切にしつつ、千歳市と整合を図りながらインフラ整備を考えていく必要がある。

【田村委員長】

- ・ 行政界を超えて一体的にまちをどうとらまえるか、特に農業の部分も含めてどう入れ込むかというのは課題である。

【柳谷委員】

- ・ 中央部や西部において、人口密度の低下・高齢化が進行しており、生活拠点をどのように維持していくか考えると、行政の手続きも含めて、医療・福祉、買い物の利便性を維持していくことが基本だと思う。
- ・ 商業は、大規模よりも中小規模を点在させ、歩いていける、歩いて暮らしていける地域環境を確立していく必要がある。
- ・ コンパクトシティは、それぞれの地域の特色を生かすとともに、人口減や高齢化が進んだとしても、こういった機能が20年たっても確立していることが必要である。

- ・ 福祉施設は、小規模なグループホームなどが様々な場所でできており、施設が所有しているバスもあるので確立はされているが、病院等への通院を考えた場合、バス路線を維持させる必要がある。
- ・ バス利用者は減少傾向にあるが、ここ2～3年は微増している。時間帯や利用者の年齢などを分析し、どのように維持していくか考えなければならない。

【田村委員長】

- ・ 都市機能とともに、町内や商店街、お祭りなどのソフトをどういれていくか、また、西部に子育て世帯を誘導するなどして、高齢者も若い方も一緒に住むような拠点を形成すべきである。

【宮本委員】

- ・ 過去のまちづくりで成功した部分と失敗した部分を検証し、これからのまちづくりをしていかなければいけないのではないか。
- ・ 例えば、その時々市長や市民の考え方がいろいろあったであろうが、中心部にあった工業高校や東高校を、字高丘・清水町に移転させ、まちなかから高校を全部なくしてしまった。これは、まちなかを空洞化させたまちづくりの一つの失敗例ではないか。
- ・ もちろん成功した部分もあるが、こういうことを一つ教訓として次なるマスタープランを作っていくべきである。

【内海委員】

- ・ 千歳市は北海道の中でも唯一人口が増えている。苫小牧も何か対策を講じなければならないと思う。例えば、人口密度が減りそうなエリアに子育て支援施設を集めるなど、子育てしやすいような環境をつくり、人を呼び込むような政策があってもいい。
- ・ また、観光振興に力をいれ、そこで雇用も発生させて、さらに定住させるというような連動したような政策も必要である。

【下夕村委員】

- ・ 人口減少の中で、広げた市域をどう維持していくかということは重要であるが、そもそも今の都市計画エリアは、苫東に大規模工業地域ができて、今の倍の人口を想定して設定された区域であり、現実的には広過ぎると思う。
- ・ コストの低減など行政側でいろいろ努力をという話もあったが、区域の淘汰を考えないと現実的に都市運営というのは難しい。いったん広げたものをたたむことは非常に難しいし、行政としても示しにくい部分かもしれないが、そこに踏み込んでいかなければならない。

【田村委員長】

- ・ 課題6「国際競争力に資する都市形成」について、千歳空港も含めてのこの地域というのは、北海道の玄関でもあり、これからの国際化のときにすごく大事な拠点である。
- ・ 北海道の農水産品を世界に送り出すときの拠点ですから、自分たちの生活に直接かわらないかもしれないが、国際競争力のある、世界に開かれた苫小牧ということをもとめていただきたい。

(2) 将来都市像と骨格・構造について

【事務局から説明（資料3）】

【丹羽委員】

- ・ 生活拠点という考え方は非常に良いと思う。細長いまちでは、端から端に行くのに長時間かかり、特に高齢者にとっては大変である。
- ・ 植苗地域では、デマンドバスを10年近く行っており、玄関先まで送迎されるので便利であり好評である。他の市街地において、デマンドバスを走らせることで利便性を向上させることは良いと思うが、路線バスと競合しないようにすることが必要である。例えば、拠点間まではデマンドバスで結び、拠点間は路線バスで結ぶなどの方法は考えられないだろうか。
- ・ 駅前については、今のような車社会では駐車場がなければ難しい。
- ・ 今回示された4つの拠点を充実させることで、市民生活の充実は図られると思う。東部では、沼ノ端駅北側で市役所窓口の代わりになる施設ができ、さらに機能強化が図られるため、中心部まで行かなくても沼ノ端周辺だけで十分な状況となる。

【柳谷委員】

- ・ 苫小牧の顔というのは、何をもってそう言うのかが分からない。苫小牧駅が7,000人／日しか利用されていない。車社会ではあるが、観光振興等々で多くの人に利用してもらうためには、札幌―新千歳空港の電車のうち何便かを苫小牧に延伸させるような将来構想を考えるべきである。それを見越してまちの顔をどうするか考えたほうが良い。
- ・ 現状では、福祉施設やコトマがあるが、買い物をする施設がないので不便である。まちの顔のなかに生活機能も入れることが重要と考える。
- ・ 生活拠点については、示された方向で進めていくと、高齢者にとっても非常に安心であるし、そこに住む人にとっても生活の利便性が確保できるので、充実させていく必要がある。
- ・ 道路については、三光町や明野新町、柳町周辺の国道36号が片側2車線であるが、朝夕、非常に混雑しているので、片側3車線にしてもおかしくないのではないかと。これは産業の面でも好影響を与えると思うので、将来構想としては、都市の骨格として考えて良いのではないかと。

【宮本委員】

- ・ まちづくりの目標1、目標3、目標4、目標5は良いと思う。問題は目標2「苫小牧市の顔となる都市拠点の形成」である。失敗から学ばなければならないのは駅周辺の地区である。egaoの問題が解決すれば、JR北海道に駅舎等も含めて協力の要請をすべきである。
- ・ 中心部には商業施設をつくっても人は集まらない。商人は商売になるところでないと店は出店しない。オフィスビルをつくっても事業所は入らない。
- ・ 一つの方法として、市が用地を買収し未来に残るような施設をつくるべきだと思う。例えば、後世に残るような公園をつくってはいかがか。駅前に素晴らしい公園があり、人が集まってくれば、商業も集まってくるかもしれない。商業施設をつくれればテナントが入ってくれて人が集まるというのは大都会のみの話である。
- ・ 商工会議所としては、これから大学のサテライト構想を立ち上げたいと考えている。苫小牧は港湾・工業都市であるが、今でも技術者が不足している。特に工業系の学生をどこの企業も欲しがっている。実際に職場体験をしながら、自分が将来活躍できる場所を少しでも見出してもらえるようなサテライトを、できればまちの真ん中に持ってきてほしいと思っている。

【内海委員】

- ・ 目標2「苦小牧の顔となる都市拠点の形成」に着目した。苦小牧は企業・工場のイメージが非常に強い。駅前に降りたときに何も核となるものがない。では、それが果たしてオフィスビルでいいのかという点と違う。オフィスをつくれれば人が集まり、JR乗降客数・周辺の商業・周辺居住者に対して好影響を与えるかもしれないが、人の流れを生むような建物・道路・公園であるようなものの方がふさわしい。
- ・ 札幌に近いというのが、幸でもあり不幸でもある。札幌と距離が近いので、ミニ札幌を目指すのではなく、札幌市のベッドタウンを目指すべきである。
- ・ 鉄道や幹線道路によって分断・独立してしまうことがあるので、都市間軸を結ぶ南北道路を避難路だけではなく、人の交流・対流も含めて目指すべきである。

【下夕村委員】

- ・ デマンドバスで結節点を結び、結節点間を基幹交通で結ぶというのは理想的ではあるが、現実的ではない。いかにして利用してもらえるのか、利用しやすいものをどうつくっていくのかを議論しなければならない。
- ・ 都市軸について、国道36号（明野南通）ではなく道道苦小牧環状線（明野北通）に位置付けることがどうかなと思った。ただ、現状の国道36号は朝晩、あるいは週末に大変渋滞するので、現状の規格で足りているのかという問題もある。
- ・ 軸としては、骨格軸と生活軸の2本は必要ではあるが、北側の3本目の軸（美沢錦岡通）の必要性も議論になると思う。
- ・ 苦小牧中央IC建設・緑跨線橋の改良によって、国道276号（支笏湖通）を強化していくことは、まちの中心部をつなげる意味では非常に重要である。

【丹羽委員】

- ・ 西部から東側に通勤する際、東西に延びる幹線道路や跨線橋が渋滞して大変だと聞いている。美沢錦岡通は40年も前から計画があるが事業化に至っていないことも踏まえると、この道路実現に向けて一層というのもあるが、高速道路を有効活用することも考えられるのは。
- ・ 中野跨線橋と港跨線橋においてトラックが渋滞しているので、その中間に南北道路があるべき。
- ・ 苦小牧駅周辺の線路を高架にしておくべきだった。人が来ないところには商店も何もできないが、旭大通アンダーパスは駅前を通らない。
- ・ （仮称）市民ホールが現市民会館周辺に建設されると思うので、それと駅とを結ぶ駅前に学校を立地させることは良いと思う。工業都市なのだから、高専の分校など技術者をもっともっと養成したらいいと思う。

【柳谷委員】

- ・ ハード・ソフトの技能・技術者を確保していくのは企業の責任と言いつつも、まちとして技術者を育成していくための施策も必要。産業関係だけでなく、福祉・子育て関係も非常に不足している。目標2「苦小牧市の顔となる都市拠点の形成」において、福祉・子育て関係の専門学校などを誘致することも必要だと考える。

(3) 市民意向調査について

【事務局から説明（資料4）】

【柳谷委員】

- ・ 無作為抽出する 3,000 名は、地域・年齢層・職業・男女比率を加味しなくていいのか。

【事務局】

- ・ 職業は難しいが、地域別に人口・性別・年齢等の比率を踏まえて抽出する。

【丹羽委員】

- ・ 回収率はどの程度を想定しているのか。

【事務局】

- ・ 3割程度を想定している。

6 その他

【事務局から次回委員会について連絡】

【田村委員長】

- ・ 苦小牧として「雇用」をしっかりつくっていくということを掲げることは高く評価していかなければならない。交通については、都市計画マスタープランの範囲を超える課題もあるかもしれないが、本委員会でも議論していきたい。
- ・ 市民意向調査の結果も踏まえて、次回以降引き続き議論していくことになるが、今回議題とした「将来都市像と骨格・構造」及び「市民意向調査」については、現段階においてはこれを了解したということとする。

7 閉会